

田中康夫の



69

憎まれっ子世に憚る

世の中の「建前」に絶つて生きる人々からすれば、文字通り「満身創痍」と呼び得るでしょう。

休刊中の『噂の真相』で「東京ペログリ日記」を連載する遙か以

等の自然も、「早期発見・早期治療」を心掛けてこそ持続可能な「無病息災」との信念を抱きます。

この4月に63歳の誕生日を迎える小生は3月末、人工股関節全置換術を東京慈恵会医科大学附属病院で受けました。2011年の左脚に続いて右脚に。前回は衆議院議員を務めていた地元の兵庫県立尼崎病院で、関西医科大学の医師が執刀医でした。高齢化社会ならぬ超高齢社会では一般的な手術。ジョージ・W・ブッシュ氏も両脚を入れ替えています。

甲状腺が胎児期に生成される過程で一時的に機能する甲状舌管は年齢と共に通常は消失します。10万人に1人の割合で腫瘤となつて残った小生は2013年、正中頸嚢胞の切除術を受けました。

6時間に亘る膀胱全摘除術+回腸新膀胱造設術を長野市民病院で受けたのは、賛成44人・反対5人・欠席11人で不信任決議を突き付けられ、敗戦記念日の8月15日告示・9月1日の防災の日が投票日だった出直し知事選から1年半後の2003年12月25日。「ウロバッグ」を体外装着する従来型と異なり、日常生活に不都合が生

じぬ手術。膀胱と前立腺を摘出。60cm切除した小腸を縫合・新しい膀胱を同じ場所に設けます。

現在は妻の恵がW嬢の符牒でPG日記に登場の1999年10月に旅行先のミラノとバーゼルで血尿。出身校の新潟大学医学部に勤務していた妹の紹介で、恩賜財団済生会新潟第二病院で経尿道的膀胱腫瘍切除術を計4回。内視鏡で腫瘍を焼き切る手術。

翌2000年10月26日の県知事就任に伴い転院し、2003年の摘除術まで切除術を計2回。何れも全身麻酔。併せて新潟時代から、生理食塩水に溶解したBCGⅡウシ型弱毒結核菌をカテーテルで膀胱に注入し、薬剤を膀胱内部に接触させる激痛を伴う治療も複数回経験しました。

都合3回の自動車全損事故の初回は1983年10月12日。軽井沢の自宅から帰路の大雨の早朝に、越自動車道と目白通りの三軒寺交差点。ハイドロプレーニング現象で制動が利かず、信号機に激突。救急搬送された病院で左膝を二重に縫合手術。田中角栄氏第一審判決前日でニュースが少なかつた為

で報じられました。

2008年には網膜剥離。全国戦没者追悼式参列後に自室で原稿に呻吟中に左目が万華鏡の如き状態に。通常は硝子体手術なるも9割近くが剥離。医師の機転で、古い術式の強膜バックリング術を敢えて最初に。眼球が大きいが故に数日後に部分的に剥離した後に硝子体手術で完治しました。

皆さまのNHK正午のニュースで田中知事緊急手術と全国放送されたのが、2001年4月に11日間入院の右下肢蜂窩織炎。ひつき傷の開口部からメチシリン耐性黄色ブドウ球菌が侵入。スポーツの際に痛みや腫れを生じた際には侮る勿れ。判断が遅ければ血液を通じて脳や心臓に拡大、死に至る厄介な細菌感染症です。

小学2年で扁桃腺摘出術、中学3年で虫垂炎切除術。2010年の鼠径ヘルニア摘出術も含めて、自慢にもなりません。全身麻酔計13回、部分麻酔計5回の小生は胃内視鏡検査・大腸内視鏡検査を年1回励行。幸いに年2回の血液検査・尿検査の数値は何れも基準値内。「憎まれっ子世に憚る」『早期発見・早期治療』の哲学です。

★次号の5月号の発行日は4月29日です。